

ソフトウェア品質保証 責任者の会

第2期 第8回会合次第

2014年5月30日(金) 19:00~21:00
ソフトウェア品質保証責任者の会準備委員会

本日の内容

- 19:00~19:15 オリエンテーション
本日の流れ
日科技連からのお知らせ
SQiPシンポジウム発表枠のお知らせ
SNS開設のお知らせ
 - 19:15~19:45 これまでの振り返り
(準備委員からの報告)
 - 「人財育成」 15分
 - 「身の丈に合った開発プロセス」 15分
 - 19:45~20:45 グループディスカッション
 - チームA “人財育成”
 - チームB “身の丈に合った開発プロセス”
 - 20:45~21:00 グループディスカッション報告
- * 終了後に懇親会（自由参加）を実施します。

SQ i P シンポジウム発表枠

SQ i P 枠 4 枠 (2 日 × 2) 中 1 枠確保

「責任者の会 紹介」 15 分

「活動成果発表」 30 分 × 2

(人財育成、身の丈プロセス)

SNS開設のお知らせ

- **SNS (サイボウズLive)を開設しました**

- 招待形式のClosed な SNSです
- 限られたメンバーでの情報交換・蓄積が可能です

- **情報交換・情報蓄積の場として活用します**

- **登録情報をMLにてお知らせします**

- 会社からのアクセス制限のある方はスタッフにご相談ください



例会報告

■ 第2期活動

- 活動テーマ検討
 - テーマの分類とグルーピング
 - テーマ案化
- 活動テーマ紹介と検討
- チーム分け
 - 活動したいテーマ毎に分かれて活動
- テーマの詳細化
 - ブレインストーミングによるキーワード抽出
 - キーワードのグルーピングと“つながり”の確認
- 希望講師検討
 - 活動に必要な情報入手に適切な方を選定

準備委員会
が事前準備

活動中

チーム活動

テーマ分類

いただいたテーマ案を
含まれるキーワードな
どで分類しました。

テーマ案	分類1	分類2	分類3
各社の品質保証部門の抱える課題共有や事例紹介をし、その内容を討論する。	大方針		
ソフトウェア品質保証担当者の育成とSQuBOKの活用 技術的側面 – 品質保証の勉強を1から始める –	育成 育成	学習 学習	
どのような組織（プロジェクト）では、どのような品質保証・品質管理をすべきか。	研究・調査	プロセス	テーラリング
さまざまなプロセスモデルに対するソフトウェア品質保証	研究・調査	プロセス	テーラリング
そもそもプロセスはソフトウェア品質に貢献しているのか？	研究・調査	プロセス	
ソフトウェア固有の品質保証法とは？ ハードウェアの“ばらつき制御”と異なるアプローチ	研究・調査	プロセス	
ソフトウェアの最適な品質テストの仕方（仮）	実務品質部門 とテスト部門 （組織論）	品証観点テス ト技術	テストプロセ スによる品質 保証
デザインレビューの効率的なやり方 フロントローディングの割に手法が確立していない	実務	レビュー技術	
調達品（OTS/受託）に対するソフトウェア品質保証	実務	プロセス	受入テスト
品質管理部門を持たない中小企業でも明日から出来る品質への取り組み	実務	プロセス	テーラリング の一形態
一個人でも出来る品質を向上させる方法	実務	プロセス	テーラリング の一形態
ソフトウェアのプロジェクト計画とは？ 「組織的な改善の視点」のもの	研究・調査	プロジェクト	
火を吹いているプロジェクトの火消事例	実務		

テーマ分類

[基本的な考え方]
ソフトウェアの品質保証
はプロセスで行う

目指す姿を投影しました

大組織の品質保証を下敷きに
中小組織に適切な品質保証
それを目指す品質担当者

大組織の品質保証を下敷きに
中小組織に適切な
品質保証プロセスモデル

大組織 → 中小 → 個人

品質モデル構築
各種モデルのテーラリング
→ 受入テスト (COTS)
→ 品証テストの実装

Not 小技集

中小
個人

観点の
相違
類似

実装からの
Feedback

応用力を持つ
品質保証担当者
育成と適切な評価

育成 (教育)

Ex. ...
理解しやすい体系化
応用力
...設定と評価指標設定

基礎的知識
理解しやすい体系 (≠BOK)

Baseline

テーマ化

[基本的な考え方]
ソフトウェアの品質保証
はプロセスで行う

活動指標

大組織の品質保証を下敷きに
中小組織に適切な品質保証
それを目指す品質担当者

大組織 → 中小 → 個人

中小

個人

観点の
相違
類似

Not 小技集

活動テーマ案

大組織の品質保証を下敷きに
中小組織に適切な
品質保証プロセスモデル

品質モデル構築

各種モデルのテーラリング
→ 受入テスト (COTS)
→ 品証テストの実装

実装からの
Feedback

育成 (教育)

Ex. S

理解しやすい体系化

応用力

目標設定と評価指標設定

応用力を持つ
品質保証担当者
育成と適切な評価

基礎的知識
理解しやすい体系 (≠BOK)

Baseline

チーム作業報告

- **ディスカッション**
 - 成果イメージ
 - 議論の深堀
 - 希望する講演テーマと講師の選定

- **報告**
 - 報告10分、質疑応答 5分

次回以降の予定

詳細は追ってお知らせします

- 第 8 回定例会 2014年5月30日(金) 19:00～
- 第 9 回定例会 2014年6月28日(土) 13:00～
 講師：安達賢二氏 (HBA)
 テーマ：「SaPID + 身の丈改善 + 人財育成」(仮)
- 第10回定例会 2014年8月 1日(金) 19:00～
 講師 (予定) 野中誠氏 (東洋大)

発表資料作成進行状況により、上記以外にも活動の場を設定する場合があります。